

部門委員長 本年度の抱負と方針

クラブ奉仕部門 委員長 中山恵詞 (所沢RC)

元気になるクラブ活動

高山ガバナーは、クラブ奉仕関係の活動方針として、①会員増強・退会防止、②ロータリー家族委員会の新設、③女性会員の活動強化、④インターネットの活用などを挙げています。

活動方針＝会員増強・退会防止については拡大増強委員会を「増強・退会防止委員会」に変更、さらにロータリー家族委員会を設けたことです。

ロータリー家族委員会の活動は、百年委員会の活動と合致しますので、女性会員の増強と合

わせて推進。クラブでは、ロータリアンの配偶者、子どもたちにも拡大して親睦と娯楽、奉仕活動を各クラブで盛り上げて頂きたいと思います。

ロータリー情報では、ロータリークラブを運営するに当たって最低限クラブ定款・細則の活用、インターネットの活用。

ロータリーの情報源である「ロータリーの友」を必ず読んで頂き、クラブ会報の工夫された紙面づくりに力を入れて頂くことに期待します。

職業奉仕部門 委員長 橋本正彦 (朝霞RC)

最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる

人の真価が問われるのは、困難に直面したときだとよく言われます。その意味では、昨今の厳しい経済状況で、経営者の真価が問われているのではないのでしょうか。そこで、今年度は企業倫理と経営の調和を考え「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」を実践したいと考えています。そこで、次の三つの課題に取り組みます。

第1は、職業奉仕研修会の実施です。今年度はグループ別に5回の研修会を実施します。内容

のある講演及び情報交換で、出席されればきっと感動されることと思います。

第2は、“私の職業倫理と職業紹介”の冊子作成です。ロータリアンの経営者が自己の職業倫理観をじっくり考えることに意義があります。

第3に、グローバルリサイクル活動の支援です。タンスに眠っている衣料品を、寒さに震えている地球家族に送る運動です。タンスが空になれば、次なる経済効果が見込まれます。

社会奉仕部門 委員長 武田 哲 (深谷東RC)

環境問題に関する情報提供

ロータリアンは、ロータリーに誇りを持って、みずからの職業を通じて社会に奉仕をしています。そしてさらに、より目に見える形で、地域社会に対しての奉仕をしています。

環境、高齢者、障害者、青少年等々、地域社会で解決を要する問題はさまざまあります。

地域に根差したロータリアンは、地域の問題を解決していく中で、素晴らしい喜びが得られます。

ロータリーは、みずからの職業をまず充実させて、そしてさらに奉仕ができる喜びも味わえる、素晴らしい組織です。

地区の社会奉仕部門は、特別な奉仕プロジェクトは致しませんが、本年度、特に環境問題に関しての各クラブの奉仕プロジェクトに役立つ情報の提供を、地区の事業の中心と考えています。

新世代部門 委員長 郷家正和 (坂戸RC)**ローターアクト・インターアクトの向上と充実**

次代を担う若者を対象とする私たちの部門が、新世代部門として新たに独立して2年目を迎えました。RIテーマ「Lend a Hand 手を貸そう」は、いろいろと解釈できますが、当新世代部門から見れば、まさに時宜にかなったテーマと言えましょう。また高山ガバナーは、掲げられた三つの目標の第1に「人づくり 世代を担う青少年」をうたわれました。

新世代部門としては、沈滞気味のローターア

クト・インターアクトに対し、その内容の向上と充実に一層励み、さらに拡大に向けて活動する所存です。

青少年交換は数年前から比較すると交換数の減少は否めませんが、質の向上に努めます。ライラは取り組み方法によっては、難しい一面がありますが、他の委員会との共同事業をも視野に入れ、期待にこたえたいと思います。

ロータリー財団部門 委員長 野中弘之 (熊谷東RC)**皆様のご理解とご協力をお願いします**

地区財団活動は本年度より多くの点で方向が変わります。その中から一つ挙げると、これまで国際奉仕の分野にのみ使われていた資金が、地区補助金として各クラブの社会奉仕活動にも活用できる道が開けたことです。(DDFの20%を上限として)

＜抱負と方針＞

①教育的プログラムでは、すぐれた国際親善奨

学生の派遣及び募集。近いうちに世界平和奨学生が出てくれることが夢。

②新たにスタートする地区補助金、マッチング・グラントに各クラブ積極的に挑戦して頂きたい。

③これらの財団地区活動を展開するためには、年次寄附1人\$95を中心とする\$258,000の年次目標達成が不可欠であることのご理解、ご協力をお願いします。

米山奨学部門 委員長 井花富男 (新狭山RC)**後に続く人たちのために**

米山の奨学事業は、戦後間もないころ、東京RC独自のものとしてスタートしました。次第に全国のロータリアンの賛同を得て、現在では日本の全ロータリアンの善意の寄附に支えられ、日本を留学先に選んだ外国人留学生を支援する国際奉仕事業となっています。残念ながら長引く不況のため、寄附額が毎年減少傾向にあり、現況ではこれもある程度はやむを得ないことかと思ひます。

戦後間もない頃は、貧しくても復興という希望が活力になったと思います。現在は満ち足り過ぎて、不況の中、希望も見出せない。しかし子は親の背を見て育ちます。こういうときこそ、後に続く人たちのために希望がわき、元気の出る背中を示す責任があるのではないかと思います。なえた背中からは感動も希望も呼び起こせません。今年もどうぞ米山に温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。